# 母と子のにわ

－利用者のみなさまと大阪母子医療センターをつなぐ－

vol.53 Spring
2023.3.20

Web 版はこちらから▶


## 当センターにおける小児の COVID-19 患者への対応とワクチン接種の重要性について

新型コロナウイルス感染者に占める小児の割合は流行を重ねるごとに上昇し、小児の重症例も増加しました。その理由の一つに小児のワクチン接種が進んでいないことがあげられます。当センターではこれまでに約500人の小児のCOVID-19患者の入院を受け入れました。軽症・中等症患者に加えて、人工呼吸管理を要したり、脳症・脳炎など重症化した小児の受け入れを行っており、小児の総入院数ならびに重症患者数は大阪府随一です。入院となっても経過観察、あるいは点滴による水分補給、酸素吸入などで数日のうちに回復することが大半です。一方で、集中治療が必要であった 20歳未満の重症患者は、オミクロン株が流行したこの1年間（2022 年 1月 1日 ～ 2023 年 1月 4日）に計 50人で、全入院患者の約1割に相当しました。これらの患者を分析したところ、年齢の中央値（入院児の年齢を順番に並べたときの真ん中の年齢）は 2.5 歳であり、0 歳が最も多く 12 人、次いで 1 歳が 10 人となっており、小児のなかでも低年齢の児が多くなっています。全体の半数近い 23 人には基礎疾患がありませんでした。入院した理由は、最も多かったのが呼吸不全によって人工呼吸器などの装着が必要になったケースで 24人でした。次いで脳炎や脳症が 9人（特に第7波以降に増加）、循環不全が 8人となっています。基礎疾患がなくても退院後の生活に支障が出るなど、重い後遺症が残るケースもありました。50 人のうち、ワクチンの初回接種（2回接種）を終えていたのは 4 人のみでした。このように、重症患者の年齢が比較的低く、ワクチン接種者が少ないのは、日本における重症例あるいは死亡例の全国的な調査結果と同様の傾向といえます。

小児の COVID-19 は基本的には軽症で自宅療養で治癒します。しかし、感染した小児の一部は入院となり、そのうち約 1 割は重症化することがあり、基礎疾患がなくとも注意が必要です。ご自身のお子さんではなくとも、辛い思い、悲しい思いをする子どもやご家族がおられるということを念頭に、基本的な感染対策を継続することに加え、ワクチン接種を積極的に検討していただきたいと考えます。

（新生児科・感染症科　副部長／ COVID-19 対策本部　野崎 昌俊）

## 面会制限のお願い

新型コロナウイルス感染症の流行状況により変更となる可能性がございます。
ご来院の前に、ホームページの「ご来院に際して」などをご確認ください。

**母性棟**

- 夫（パートナー）のみ
- 1日 1 回、1 回 30 分まで
- 15 ～ 20 時 までの間
- 個室または談話室（予約制）での面会

でお願いします

**小児棟**

- 12 ～ 20 時の間
- ご両親のみ

でお願いします

（2023 年 3 月 20 日現在）

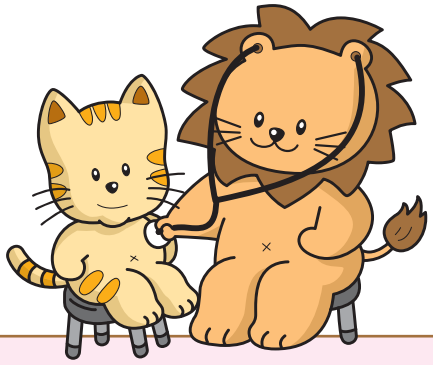
シリーズ

大阪母子医療センターの
得意な診療

## 気管支喘息を正しく理解しましょう。よくならない？　本当に喘息ですか？

気管支喘息とは咳、喘鳴（ぜいめい）（ヒューヒュー、ゼーゼー）、呼吸困難を繰り返す子どもに多い病気です。誰もが知っている病名ですが、その病態は必ずしも正しく理解されていない事があります。喘息の本態は気道の慢性的な炎症（赤くただれている状態）です。炎症が起こっているため気管支が敏感になっており風邪をひいた時や急な気温・気圧の変化、過度の疲労などが引き金となって気管支が収縮し喘息発作をきたします。発作を起こした際には気管拡張薬を吸入（もしくは内服）すれば一時的には改善しますが、本態である慢性の気道炎症が改善されていなければ発作を繰り返すことになります。アトピー性皮膚炎の子どもは皮膚が赤くなっているのは目で見えるので調子の良し悪しがわかりやすいですが、喘息は外からは見えない気道の炎症なので悪い状態が見逃されやすく注意が必要です。月に１回以上症状を繰り返す場合には、普段から気道の炎症を抑える予防的な治療が推奨されます。

最近は喘息治療薬の進歩や治療ガイドラインが広まった事により重症の喘息の子どもはずいぶん減りました。そのような状況においても喘息と診断され治療を継続しているのに症状が改善しない子が時々おられます。十分な治療をうけていても改善しない場合では、そもそも喘息の診断が正しくない事がよくあります。咳、喘鳴、呼吸困難の原因は喘息以外にもありますので一度専門病院の受診をおすすめします。小学生以上になると呼吸機能検査ができるようになります。思いっきり息をすってはくだけの簡単な検査ですが正確な診断や重症度の評価に大変役に立つものです。コントロールが不十分な場合にはぜひとも受けてほしいと思います。症状をしっかりコントロールして不安のない活動的な毎日をすごし、喘息のために健全な発育が阻害されることがないように治療していきましょう。



（呼吸器・アレルギー科　錦戸 知喜）

## 会計待ち状況をアプリで確認できるようになりました！

待合番号を選択
↓
「会計」待合番号を選択
↓
順番が確認できます

▼病院外来アプリをダウンロードください

スマパ（Sma-pa）

Download on the App Store

GET IT ON Google Play

## 保育士さんの活動について　みんなの笑顔のために

私たち保育士は、日々の保育活動の中でベッドサイドやプレイルームでの保育だけでなく、クリニクラウンさんのオンライン訪問やZoom保育などの取り組みを行っています。

オンラインでは毎月1回クリニクラウンさんが Zoom で訪問してくれます。初めは画面でのやり取りに戸惑ってしまうこともありましたが、すぐにクリニクラウンさんの魅力に引き込まれ、子どもたちはもちろんお父さん、お母さんたちも一緒に参加し楽しんでくれています。

また、昨年度からは COVID-19 で入院している子どもたちにZoom保育を提供しています。子どもの興味・関心に合わせて、手遊びや紙芝居、製作やお話をしています。子どもたちの反応はとてもよく「次は～〇〇したい」と自らリクエストをしてくれます。子どもたちの多くの笑顔を見ることができ、私たちもうれしい気持ちになりました。

このような取り組みを通して、どんな状況の中でも「子どもらしく過ごせる環境」があること、また、子どもたちにとっての「遊び」がいかに大切なものであるかを実感しました。

入院中の子どもたちが、笑顔で過ごし、遊びを通して成長・発達するように、これからも保育士ができることを考えていきたいと思います。

（看護部）

## AYA WEEK 2023 のイベント企画に今年も参加しました！

**AYA WEEK とは「若い世代とがん」の今を世の中に発信していくイベントです。**

AYA WEEK 2023 では、「つながる」をテーマとし、3月4日（土）から3月12日（日）の期間、様々なイベントが全国で開催されました。

小児・AYA 世代がん経験者は、生活していく上で直面する様々な課題に加え、がん治療による副作用や晩期合併症を抱えながら社会生活を送っています。また、経験者の高年齢化に伴う小児医療から成人診療科へのスムーズな移行も問題となっています。そのため、母子医療センターでは AYA WEEK 2023 のイベント企画として、『小児・AYA 世代がん経験者の長期的な健康管理について考える』をテーマにした Web 研修を開催しました。この研修の学びが小児・AYA 世代がん経験者の支援に「つながる」ことを期待しています。

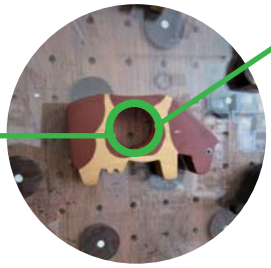
（患者支援センター）

## オリジナル募金箱「森のなかまたち」を１階 アトリウムに設置しました

募金箱は、大阪母子医療センターボランティア会の皆さんからボランティア会２５周年記念に寄贈いただきました。募金は、センターの運営費や新病院建設の資金に活用させていただきます。

木や動物の
穴の部分から
硬貨を入れてください
カタカタと下に
落ちていきます

募金の入れ方▶



RECIPE
医師･栄養士監修

## ひじきと桜えびの酢の物

うまさと栄養と魅力がつまった１品をどうぞ♪

ひじきと春が旬の桜えびには、鉄とカルシウム、マグネシウムが豊富に含まれます。カルシウムとマグネシウムは骨や歯の材料となります。骨量が増加する成長期にしっかり摂っておくことは、将来の骨粗しょう症の予防にもつながります。鉄は赤血球の材料となり全身に酸素を運びます。どれも、妊娠中や成長期の子どもにとってとても大切な栄養素です。

今回のレシピはさっぱりとした酢の物です。カルシウムは酢の成分によって吸収効率が上がります。

（栄養管理室）

### 材料（2 人分）

芽ひじき（乾）・・7ｇ
えのきたけ・・・50ｇ
しお・・・・・・少々
酒・・・・・・・小さじ 1/2（2.5ｇ）
みつば・・・・・10ｇ
酢・・・・・・・小さじ 2（10ｇ）
だし汁・・・・・小さじ 2/3（3.3ｇ）
しょうゆ・・・・小さじ 2/3（4ｇ）
砂糖・・・・・・小さじ 2/3（2ｇ）
桜えび・・・・・5ｇ

▼ １日推奨量（mg / 日）

| 年齢 | 1～2 | 3～5 | 6～7 | 8～9 | 10～11 | 12～14 | 15～17 | 18～ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 鉄 | 4.5 | 5.5 | 5.5 | 7.0 | 8.5 | 8.5～12.0 | 7.0～10.5 | 7.5～10.5 |
| カルシウム | 400～450 | 550～600 | 550～600 | 650～750 | 700～750 | 800～1000 | 650～800 | 650～800 |
| マグネシウム | 70 | 100 | 130 | 160～170 | 210～220 | 290 | 310～360 | 270～370 |

▼ １人前
エネルギー 27 kcal ／ 鉄 0.6 mg ／ カルシウム 75 mg ／ マグネシウム 36 mg

**下ごしらえ**

ひじきは水で戻し、ゆでて水気をきる。
えのきたけは小房に分けて耐熱容器に入れ、塩・酒をふってラップをかけ、軟らかくなるまで電子レンジに１分程度かけて水気をきる。
みつばは２～３㎝長さに切る。

**混ぜる**

ボウルにＡを合わせ、ひじき・えのきたけが熱いうちに１と桜えびを加えて混ぜる。

大阪母子医療センターの医師と栄養士による食育レシピ「こどもの心と体の成長・発達によい食事Ⅲ 学童期・思春期」P78 に掲載されています

地方独立行政法人大阪府立病院機構
**大阪母子医療センター**
〒594-1101
大阪府和泉市室堂町 840
電 話　0725-56-1220（代）
ＦＡＸ　0725-56-5682

**基本理念**

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します

**基本方針**

・周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します
・患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います
・地域と連携して母子保健を充実させます
・母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます